



校訓「自主・協調・明朗」 平成29年3月24日

日新中学校だより

尼崎市立日新中学校長 尾知山光郎

日新中の卒業生が160名増えました

3月10日（金）、ご家族と地域・関係者等ご来賓の皆様ご参列いただき、第55回卒業証書授与式を厳粛かつ温かな雰囲気の中で行うことができました。ご参加いただいた皆様、式典の挙行にご協力いただいたPTAの皆様方にお礼申し上げます。おかげさまで、160名が「日新中学校卒業生」になりました。校長式辞において、日新中学校の歴史に新たなページを加えた卒業生の足跡にふれた後、母校となる「日新」が今後の人生においてよりよく生きる指針となるように願うメッセージを贈りました。在校生代表の久保奈鶴（2年）の送辞と卒業生代表で前生徒会長の辻祐歩の答辞の後、卒業生全員による卒業の歌2曲の演奏で、厳かで感動的な儀式が締めくくられました。

高校入試・進学状況について

兵庫県公立高等学校入学者選抜（入試）が3月12日（日）から行われ、19日（日）に合格発表がありました。二年前の制度改革・学区拡大において、普通科の学区（入学志願できる通学区域）が、尼崎市・西宮市・伊丹市・宝塚市・川西市・猪名川町・三田市・篠山市・丹波市から構成される第2学区という範囲に拡大されました。以前は単独選抜（学校別の合否判定）であった普通科単位制（県立尼崎稲園や県立西宮など）や総合学科（県立武庫荘総合や県立伊丹北など）も複数志願選抜になるとともに、「その他校」合格という仕組みがなくなりました。

尼崎市（旧尼崎学区）を含む第2学区における、普通科（単位制を含む）と総合学科の複数志願選抜の結果を見ると、合計定員7,087名に対し、7,913名が受検し、第1志望合格者が6,305名、第2志望合格者が779名、合格者合計7,084名で、3名定員割れした高校が川西市でありました。第2学区全体で829名に上る不合格者の大半は、併願で受験し合格した私立高校に入学するでしょう。3月26日（日）に行われる定時制高校再募集入試に挑む生徒もいます。

本校生徒については、約3分の1の生徒の進路が2月受検の私立高校、公立高校（推薦、特色選抜、多部制I期入試）または特別支援学校に決定し、残り3分の2の進路が3月入試後に決定しました。

平成28年度が終わります お力添えありがとうございました

本日3月24日（金）午前中に修了式を行い、生徒に修了証・通知表を持ち帰らせます。一年間、保護者の皆様方、地域の皆様方にご協力、ご支援いただき、ありがとうございました。

平成29年度 始業式は4月7日（金） 入学式は4月11日（火）

平成29年度は、4月7日（金）午前8時20分までに登校し、始業式が始まります。1年生は新2年生として、2年生は新3年生として登校します。遅れないように登校しましょう。

新1年生を迎える入学式は4月11日（火）午前10時開式予定です。

別れと出会いの春にこそ、1年間を振り返り、次に進む準備を（修了式式辞から）

今日で平成 28 年度の学校生活が終わります。夏休みや冬休みと違い、春は年度・学年の変わり目で、別れと出会いの季節です。これまで近くにいた人が明日から会わなくなるかもしれません。毎日のように顔を見ていた人と顔を会わせなくなる経験をする季節で、時間が戻らないことを感じます。

また、学年の変わり目なので、1年間を振り返る機会です。十分でないという課題を見つけて、努力をしましょう。例えば、小学校で学習したことや中学 1 年の学習事項・基礎基本をやり直す勉強です。基礎を固めておくことは、新学年の勉強に役立ちます。

人間関係をうまく作れないことが気になるなら、まず、あいさつをしっかりとしましょう。

部活動等で得意なところについては、例えば、高校入試問題、選抜選手への挑戦など、高みをめざす挑戦もしてみましょう。

終わりまで時間がどれだけ残されているかを意識して、今までに何ができるようになったか正しく評価し、自分を成長させるように、春休みを有意義に使いましょう。

4月の主な予定

月	火	水	木	金	土	日
3 春季休業	4 春季休業	5 春季休業	6 春季休業	7 始業式・着任式 教科書給与	8	9
10 離任式 入学式準備	11 入学式 3年身体測定	12 対面式 2・3年視力検査 3年内科検診	13 3年内科検診 1・2年身体測定 1年視力検査	14 1年心臓検診 部活動紹介	15	16
17	18 3年全国学力・ 学習状況調査 全校5時間	19 3年昼食なし	20 3年修学旅行 1年交通安全教室	21 3年修学旅行	22 3年帰校	23
24 1・2年家庭訪問 3年代休	25 1・2年家庭訪問	26 1・2年家庭訪問	27 1・2年家庭訪問	28 1・2年家庭訪問	29 昭和の日	30

5月の主な予定 20日（土） 授業参観・PTA 総会

放課後チャレンジの学習指導員を募集します

希望者参加の放課後学習について、5月以降、次のように実施する予定です。

- 1 学習内容別にグループを作る。(国語・算数基礎復習、英語、理数、作文)
 - 2 グループ別に指導員(小学校の国・算、理科、作文、英語のいずれかを指導できる方)を募集する。
 - 3 学校と指導員で相談し、原則的な曜日を決めて、年間 25 週にわたって放課後チャレンジを行う。
- 学習指導員に応募していただける方は、月～金曜日の9時～16時に、教頭までご連絡ください。

学校関係者評価（裏面にまとめ）

学校評価のうち、概要を3月9日号でお知らせした自己評価を踏まえた、学校関係者評価委員による学校関係者評価を集約したものをお知らせします。裏面をごらんください。

学校関係者評価のまとめ

学校関係者評価は次の方々にお願ひしました。

- 学識経験者(中学校長及び教育行政経験者・人権擁護団体代表者・保護司)
- 学校評議員(元職員・中学校長経験者、元職員・高等学校長経験者、PTA(育友会)会長経験者)
- 保護者代表・PTA 現会長

文章評価について 1～5及びその後の項目は、尼崎市教育委員会により指定されています。

4段階評価について []内の数値は以下の4段階の評定の平均値です。

- 4=よく取り組んでおり成果が大きい
- 3=熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
- 2=取り組んでいるが、成果は十分でない
- 1=取組が不十分である

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる [2. 8]

生徒一人一人の確かな学力を身につけるために、校長のリーダーシップの下、年間通じて教師の資質向上や授業改善など様々な取組がなされ、その成果が実っている部分とさらに取組が必要な部分がある。「進んで授業に取り組んでいる」が80%超だが、家庭学習が不足している生徒が半数を超え、勉強のやり方がわからない生徒が1/3おり、何らかの手を打つべき。生徒の学習意欲・家庭環境・通信機器の弊害など原因が多々あるが、補充指導が必要。英語等検定、eラーニングの利用等による生徒の学習意欲向上、動機付けが重要。「落ち着いた学習に取り組める雰囲気『あまりない』が52%)も改善点。読書も不十分で、本の楽しさに気づかせるビブリオバトルなど新たな取組が必要。教師の資質向上が不十分で、PTAとの研修会、教科研究会参加、道徳をはじめ各教科での授業研究等が継続されるべき。教員の研修意欲は生徒の学力向上に繋がる。

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る [3]

生徒の規範意識は高い。県指定の道徳教育研究を学校全体で組織的に取り組まれたことは大変よい。道徳は、日々全教科を通じて醸成される。今後も系統的・組織的な継続を期待する。「生きること」に関する校長講話で心の教育を充実させ、自己実現に導く指導が実践されている。一つしかない命について、体と心のしくみを知ることにより、自分や友達を大事にできる取組を期待する。地域ボランティア清掃(日新オールクリーン作戦)は地域の一員の自覚を持たせ、自尊感情を高める上でも効果的なよい行事。他校と比較できず、実践の効果は不明だが、自律的学習者が十分に育っていない印象。将来の仕事など明確な目標を持つことで生徒の姿勢が変わる問題意識を持って自律的学習者を増やすよう取り組んでいただきたい。仕事に関する情報については、生徒が考え始めるきっかけにするため、複数の生の情報を提供することが有効。

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む [2. 7]

食育や保健体育を通して「健全な肉体に健全な精神が宿る」取組が実践されている。「栄養のバランスを意識して食事をしている」生徒6割弱という数字は家庭・PTA への問題提起。体と心は中学3年間で大きく成長するので、さらに食育や体力増強への取組を期待する。生活習慣病は、小さい頃からの食習慣も大きく影響するが、中学生になると食事のあり方を考えることで予防出来る。今の食生活や体づくりが将来の生活、健康に繋がることを理解させたい。教師の理解度を上げる研修や解りやすい教材が必要。部活動は中学生にとって計り知れない効果がある。体力向上に大きく寄与している運動部活動参加を促すよう望む。運動部が増えたことは生徒の選択肢も増え好ましいが、一方で忙しすぎることから部活動加入を敬遠する生徒もいる。先生が大変とも聞く。週に1度、月に2日土日の休みを取り、自主活動にするなど、部活動のあり方を見直す時期に来ている。

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る [3]

安全・安心は守る努力なしには維持できないことを全職員がよく理解して取り組んでいる。安全教育によって、生徒が交通ルールやマナーを守り安全に登下校し、無事故であったことは十分な成果だ。「自転車」交通安全教室の実施は交通マナー遵守のためのよい体験活動で、今後も継続してほしい。自転車保険全員加入に向けて

PTA と話を進められたい。校内事故多発は生徒の本能的な身体能力の弱体化が心配。日新中学校区は海拔が低く、東南海地震に備え、生徒一人一人に避難場所を確認させるなど、自分の命は自分で守るよう防災意識を高める、「1. 17を忘れない」防災教育の一層の充実に努めていただきたい。交通安全や震災について現実感を持って受け止めるのは難しいが、経験者に話を聞くなど、より現実的に自分で対応を考えられる防災・安全教育を進められたい。中学生が無料で地震や津波が体験できる「人と防災未来センター」を生徒に紹介しては。

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む [2. 6]

連絡網の廃止等により親同士の結びつきが弱くなり、学校・家庭・地域の連携が難しくなってきたこの時代に様々な取組が実践されている。公立中学校に特別な取組は不要。生徒の学力・体力を伸ばし、安全・安心な学習環境であれば十分で、地域行事やボランティアへの参加を加えれば地域の誇りとなる。現行の取組の継続でよい。多様な機会に学校情報を発信しているが、子どもや保護者の期待や願いに込めているかどうか謙虚に再点検してほしい。「子どもを入学させたいと思わない」小6保護者の割合(3割)が高い。「わが子・孫を行かせたい学校」づくりを大いに期待する。学校が地域や保護者からどのように見られているか常に察知する努力はますます大切。小学生の保護者に中学校の状況を伝えるのは難しいが、わかりやすく伝える工夫は必要で、SNS の活用も一考だ。地域との連携は難しいが、学校で必要な人材の登録・活用が望ましい。

■教育目標 [2. 9]

どのような生徒に育てて卒業させるか、職員だけでなく生徒に対しても意識づける取組がなされていて結果も出ている一方、授業には進んで取り組んでいても、家庭学習ができていない姿が見える。家庭の協力が必要だ。今後、道徳を含めて取組に期待する。教育目標をどう具現化するかが校長の手腕。年度当初や毎月の職員会議、大きな学校行事の前後で校長が意図していることを端的に発信すべき。朝礼講話振り返りシートの集計結果の提示を望む。教育目標の達成に向け、生徒と教職員が共有し切磋琢磨することが大切。日々新たに、明るく笑顔の多い楽しい学校づくりに精一杯努力してほしい。めざす生徒像について教師は理解しているが、実践の難しさや生徒に伝わらない状況があると思う。教師から意見を募ったり、学級内での成功事例を教師間で共有したり、生徒と意見を交わす機会を設けるなど、多様な方法論・アプローチがある。

■研究テーマ [2. 9]

「夢や志をもって自立をめざす『自律的学習者』を育てる指導」をテーマに取り組み、8割以上の生徒が「進んで授業に取り組んでいる」「あいさつをする」「決まりやルールを守って学校生活を送っている」ことが成果だ。道徳の授業が生徒たちにとって自分の人生や生き方にプラスになると考えていることも成果だ。道徳教育推進研究指定をうけたことはよかった。研究結果が大事なのではなく、研究に取り組んだ教師の実力(指導力や自信)が高まることが一番重要で、忙しい教員の日常業務を十分踏まえておかないと徒労感のみ増加する。しんどい仕事を楽しくこなす術も必要。テーマを教職員一同が十分理解し、生徒を指導するという強い気持ちを持つことが大切。テーマを意識して実践に取り組む教師の割合を高めることを期待する。押しつけると生徒の心に入らないので、上手に情報伝達することが必要。地域で模擬店舗運営など現実的な体験をすることが有効では。

■自由記述

校長の朝礼での講話の中から自分自身の考え方や生き方に思いをはせ、中学校生活の中で心に響く言葉を聞く機会を得た生徒たちは幸せだと思う。たくさんそういう生徒が増えることを期待している。人権や道徳の授業で、性同一性障害について取り上げてほしい。学校の放課後学習の時間にあまり熱心に取り組んでいないと聞く。意識付けが必要。教員一人一人が熱心に授業準備や子どもと向き合っていることはよく伝わってくる。その取組がより効果が出るよう、今後も自己研鑽に励んでいただきたい。教師間の連携も充実を図り、小学校からの生徒の情報共有などもできる範囲で進められたい。学校評価を評価のための評価にならないように、全職員に自分自身の評価として捉えてほしい。思いつくまま記入したが、評価Ⅲの1～4の記入が難しい。 以上